

# 事務事業評価シート

(H.28)No.	1147	(H.27)No.	1147
-----------	------	-----------	------

事務事業名	生徒指導充実推進事業		
担当部局名	担当室名	室長名	
教育委員会事務局	学校教育室	中森 早苗	

会計区分	事業コード	466601
一般会計	(中事業名)※予算書事業名	
款 教育費	生徒指導充実推進事業	
項 教育総務費	(小事業名)	
目 教育振興費	生徒指導充実推進事業	

## 1. 事務事業の位置付け

総合計画	政策	4	心豊かな教育と文化に包まれた、ゆとりある暮らし
	基本施策	1	生きる力をはぐくむ教育の充実
	施策	1	学校教育
	小施策	2	義務教育
重点施策コード			

## 2. 事務事業の概要

事業目的(めざす効果)
いじめや不登校になりやすい児童生徒の早期発見や学級状態把握のため、市内全児童生徒に、Q-U調査(学級満足度調査の心理検査)を実施し、改善の取組実施により、児童生徒の学校に対する満足度を高めます。
事業内容

将来、社会に適應する子どもを育てるために、学級集団や学年・学校の集団づくりを通して、いじめや不登校が生まれぬ望ましい人間関係づくりの取組を進めていきます。また、支援が必要な児童生徒をはじめ、不登校や問題行動を示す児童生徒はもちろんのこと、すべての児童生徒に対して、他者理解や自己有用感を高める取組により、いじめや不登校等の未然防止を図ります。

## 3. 総合計画の目標達成に向けた主な事業の実績・計画

	H.27年度(事業量・取組実績)	H.28年度(事業量・取組計画)			
主な事業の実績・計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級満足度調査活用検討委員会(2回)</li> <li>教育相談担当者会(3回)</li> <li>生徒指導推進委員会(7回)</li> <li>Q-U調査</li> <li>各校研修会の講師</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級満足度調査活用検討委員会(2回)・教育相談担当者会(3回)・生徒指導推進委員会(7回)・Q-U調査・各校研修会の講師</li> </ul>	H.29年度(事業計画)	H.30年度(事業計画)	H.31年度(事業計画)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>学級満足度調査活用検討委員会(2回)・教育相談担当者会(3回)・生徒指導推進委員会(7回)・Q-U調査・各校研修会の講師</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級満足度調査活用検討委員会(2回)・教育相談担当者会(3回)・生徒指導推進委員会(7回)・Q-U調査・各校研修会の講師</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級満足度調査活用検討委員会(2回)・教育相談担当者会(3回)・生徒指導推進委員会(7回)・Q-U調査・各校研修会の講師</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級満足度調査活用検討委員会(2回)・教育相談担当者会(3回)・生徒指導推進委員会(7回)・Q-U調査・各校研修会の講師</li> </ul>

	H.27年度(決算見込)	H.28年度(作成時予算額)	H.29年度(計画予算)	H.30年度(計画予算)	H.31年度(計画予算)
①直接事業費	1,421千円	1,467千円	1,480千円	1,480千円	1,480千円
内訳(千円)	国・県支出金				
	地方債				
	その他( )				
	一般財源	(0) 1,421	1,467	1,480	1,480
人工数	職員	0.30人	0.30人	0.30人	0.30人
	臨時職員等	0.01人	0.01人	0.01人	0.01人
②概算人件費	(0千円) 2,297千円	2,297千円	2,297千円	2,297千円	2,297千円
①+②総事業費	(0千円) 3,718千円	3,764千円	3,777千円	3,777千円	3,777千円

## 4. 担当室による事務事業の点検 (\*点検等による成果向上や見直しが必要な事業(法令等による義務的経費、災害復旧等緊急事業など)は点検対象外)

考察(H.27年度の取組評価、課題)	今後の対応方針(課題解決への取組、工夫・改善の内容)
Q-U調査をもとに各学校で事例検討・共通理解を図ることで担任の抱え込みが減少し、複数の教員によるチーム対応ができました。満足度は0.2ポイント上昇し、不登校児童生徒数は7人減少しました。今後も継続して児童生徒が居心地のよい学級集団をつくっていく必要があります。	各学校におけるQ-U調査結果の活用ができるように各学校の研修会を充実させます。学級間・学年間の取組の温度差をなくし、学校体制による取組の推進を図り、児童生徒を理解するための手立てを工夫します。また、関係機関との連携を強化するとともに、教育センターでの適応指導教室やカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置など教育相談機能を充実させていきます。加えて指導主事による学校訪問により、実態に応じて指導、助言します。

点検項目	内容(施策達成への貢献内容、連携・協働の実践・検討内容)
(1) 事業内容や取組成果は、総合計画の施策達成に貢献しているか A(2つ以上の施策指標達成に貢献又は基本方針達成に特に貢献)	児童生徒の学校に対する満足度が前年度よりも0.2ポイント上昇するなど、快適な教育環境の整備に取り組みました。
(2) 地域づくり組織、市民活動団体等との連携・協働は図れないか 該当しない	

## 5. 今後の方向性(担当室による内部評価)

【選択肢】 継続(改善)、継続(現行)、継続(拡大)、継続(縮小)、統合検討、休止検討、廃止検討、事業完了(予定含む)	継続(現行)
具体的な見直し内容・検討内容、継続の理由	6. 事務事業の取組に関する主な市の計画
毎年実施することで、居心地のよい学級集団づくりに効果をあげています。今後も継続して実施していきます。	第二次名張市子ども教育ビジョン ぱりっすすくすく計画(第3次)